

日本都市社会学会ニュース

No. 76 (2007.3.24.)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-4-1

専修大学文学部広田康生研究室内

E Mail：u-socio@isc.senshu-u.ac.jp

FAX：044-900-7814

(郵便振替口座：00140-4-703976)

ホームページURL：http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/

日本都市社会学会 第25回大会

歓迎の言葉

山口大学 三浦 典子

日本都市社会学会の第25回の節目となる大会を山口大学でお引き受けすることになりました。

大学のある山口市は、平成の大合併により1市4町が合併したにもかかわらず、人口は約19万人で、県庁所在地とすれば最小の人口規模でしょう。隣接する防府市も巻きこんでの合併が途中で頓挫したために、30万人の中核都市となることはできませんでした。「都市」社会学会を開催する場所とすれば、いささか不似合いかもしれませんが。

大学から最も近い宿泊場所は湯田温泉で、シティホテル形式、格安のビジネスホテル形式、公共の宿、由緒ある旅館形式など、お好みのままの宿泊場所が用意されています。

かつて、集中講義においていただく先生のために、温泉旅館をお取りしたところ、「講義に行くので、別に温泉でなくてもよい」と言われましたが、温泉でない宿泊場所を探すことの方が難しいところです。

近年は、宿泊しない観光客でも温泉が楽しめるように、あちこちに足湯も用意されています。萩、秋吉台、津和野などの観光地も至近距離で、ともすれば通過都市になるところを、温泉が人びとを引きつけているのでしょう。多くの地方都市の中心市街地が空洞化していく中で、何とか商店街が息づいています。

10年ほど前から、中心市街地の民家に眠っているお宝を開放して、まちじゅうを美術館にしつらえる「アートフルやまぐち」と称するイベントが開催されるなど、地域活性化への試みも評価されます。また、これらの市民による文化芸術活動を支援しようとする事業者たちが、「山口メセナ倶楽部」を組織しているところも、まちの魅力を高めていると言えます。

大学の周辺は、学生相手の諸施設が立ち並び、それなりのにぎわいが見られますが、懇親会を開催できるような場所から大学は離れており、会員の皆様には多少ご不便をおかけするかもしれませんが、学内の施設が利用できる金土に大会を開催させていただくことにいたしました。

大学キャンパスは、弥生時代の遺跡の上にあり、埋蔵文化財資料館では発掘されたお宝を見学することもできます。正門近くには、明治の近代国家建設に貢献した長州5傑の記念碑も建てられています。

このような山口の地で、地方都市の魅力に関する社会学的知に加え、歴史的知も深めていただければと思います。

1. 日本都市社会学会 第25回大会開催について

期間 2007年9月21日(金)～22日(土)

会場 山口大学 吉田キャンパス

〒753-8511 山口市吉田 1677-4

(JR山口線「湯田温泉」駅下車)

山口大学HP: <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

2. 交通・宿泊の案内

(1) 山口市・湯田温泉までのアクセス

山口市内中心部への主要な交通アクセスは、飛行機を利用して山口宇部空港からバスや列車を乗り継いでくるルートと、新幹線を利用してJR新山口駅で在来線か路線バスに乗り継いでくるルートとに分けられます。

宿泊施設は湯田温泉街に集中しています。湯田温泉街の最寄り駅はJR山口線・湯田温泉駅になりますが、同駅と湯田温泉街とは少し離れています(徒歩で10～15分、タクシーで5分程度)。路線バスは湯田温泉街の中心部に停車します。

東京から山口宇部空港まで飛行機を利用する場合:東京羽田から山口宇部までの所要時間は約1時間45分です。山口宇部空港でリムジンバス(宇部市営バス)「新山口駅」行きに乗車し、新山口駅新幹線口か、終点の新山口駅北口で下車(約30分)。新山口駅でJR山口線に乗り換え、湯田温泉駅にて下車。または、新山口駅北口で防長バス「湯田温泉・県庁・宮野方面」行き(5番乗り場)に乗り換え、湯田温泉バス停で下車(新山口駅からの所要時間はいずれの場合も20分程度)。

新幹線を利用する場合:新幹線「のぞみ」または「ひかり」に乗車し、新山口駅で下車(東京からの所要時間は約4時間40分、新大阪からの所用時間は約2時間)。新山口駅でJR山口線に乗り換え湯田温泉駅で下車するか、防長バス「湯田温泉・県庁・宮野方面」行き(駅北口5番乗り場)に乗り換え、湯田温泉バス停で下車。なお、一部の「のぞみ」、「ひかり」は新山口駅に止まりませんので、あらかじめ時刻表等でお調べください。



大会が開催されます
山口大学吉田キャンパスは地図上の山口地区にあります。

(2) 湯田温泉から山口大学までのアクセス

JR湯田温泉駅から山口大学まで:徒歩で約25分、タクシーで約5～10分(1,000円弱)。

湯田温泉街から山口大学まで:湯田温泉バス停から中国JRバス「山口大学」行きに乗車し、終点で下車。またはタクシーを利用。いずれの場合も約10分。



2 山口・湯田温泉の宿泊案内

湯田温泉には温泉旅館が多数存在しますが、以下では、1人客でも宿泊できる主なビジネスホテルと公共の宿のみを紹介します。なお、大半のビジネスホテルには、温泉浴場が備え付けられています。

(1) 民間のビジネスホテル

ホテルニュータナカ	TEL(083)923-4313	1泊2食¥10,000~
プラザホテル寿	TEL(083)922-3800	1泊¥6,000~
ビジネスホテル富士の家	TEL(083)922-0536	1泊¥5,500~
ホテル喜良久	TEL(083)922-0333	1泊¥6,000~
ビジネスホテルうえの	TEL(083)922-6600	1泊¥5,000~
ビジネスホテルニューかめ福	TEL(083)924-7000	1泊¥4,500~
ビジネスホテル菊泉	TEL(083)922-4545	1泊¥3,800~
ビジネスホテル伸陽	TEL(083)924-3111	1泊朝食¥4,900~
ビジネスホテル三愛	TEL(083)925-4611	1泊¥4,300~
スーパーホテル山口湯田温泉	TEL(083)921-9000	1泊朝食¥4,800~
サンルート国際ホテル山口*	TEL(083)923-3610	1泊¥6,930~

*サンルート国際ホテル山口のみは、湯田温泉街から少し離れた市内中心部にあります。

(2) 公共の宿

山口県市町村職員共済組合保養所 防長苑	TEL(083)922-3555	¥5,925~(1泊・朝食)
国家公務員等共済組合連合会 KKR 山口あさくら	TEL(083)922-3268	¥10,600~(1泊2食)
地方職員共済組合湯田保養所 翠山荘	TEL(083)922-3838	¥9,621~(1泊2食)
セントコア山口	TEL(083)922-0811	¥9,400~(1泊2食)

その他、温泉旅館も含めた宿泊に関する詳しい情報は、以下で入手することができます。

山口市 観光情報のホームページ

<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/kanko/org/index.html>

湯田温泉旅館協同組合のホームページ

<http://www.axis.or.jp/~yuda/>

湯田温泉観光案内所

TEL(083)922-4811

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 申し込み方法にご注意ください。

第25回大会の自由報告を募集します。どうぞふってお申し込み下さい。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、次号(77号)の学会ニュースにおいて自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込み及び報告要旨の提出方法 (締め切り: 2007年6月10日(日))

報告タイトル(仮題は不可です!)、報告要旨(50字×20行以内《厳守》)、使用機材の有無、報告者氏名・所属、連絡先(住所・電話番号・E-mail address)をA4サイズ1枚以内に記し、それらを保存した文書ファイルを、6月10日(日)午後6時までに学会事務局(u.socio@isc.senshu-u.ac.jp)宛にE-mailに添付してお送り下さい。なお、機材の使用については、会場の都合により不可能となる場合もあります。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては一切受け付けないことになっております。メンテナンスなどのためにサーバが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項(必ずお守り下さい!)

共同報告の場合、登壇者は都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会に関するお問い合わせは学会事務局までメールにてお願いいたします。

ファイルは、原則としてテキスト形式とします。Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word」形式でも結構です。

「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としていますので、図表は入れ込まず、文章のみでお願いします(学会ニュース1頁に2報告の要旨を掲載します)。

この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

大会当日にレジュメ/資料を配付する場合は、各自で別途ご用意下さい。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出>

締め切り: 6月10日(日)午後6時までに必着

申し込み/報告要旨原稿提出の方法: E-mailによる

申し込み/報告要旨原稿提出先: 学会事務局 u.socio@isc.senshu-u.ac.jp

2. 理事会報告

2006 - 2007年度第1回理事会が2006年12月10日午後3時から5時まで専修大学神田校舎で開催されました。企画委員会(園部委員長)報告では、2007年度シンポジウムとテーマ部会案についての報告がなされました。編集委員会(町村委員長)報告では、第2回編集委員会(10月)と第3回編集委員会(12月)で、『日本都市社会学会年報』の編集作業の進捗状況が報告されました。事務局(広田事務局担当理事)から、現在の『年報』価格(2100円)の決定経過について調査した結果が示され、過去において「学会事務センター」への販売委託に伴って設定された消費税分の支払い義務が消滅した現在、次年度から価格を2000円に引き下げることが松本会長より

提案され決定されました。松本会長より学会賞選考委員候補が提案され承認されました。その他、理事会・委員会、シンポジウム打ち合わせ等に関わる旅費補助の検討、事務局員費の見直しが行われました。

(常任理事 広田康生)

3. 企画委員会報告

第25回大会では、2日目(9月22日)の午後に、シンポジウム「地域福祉の現在と未来 都市社会の力を問う」を、1日目(9月21日)の午後にテーマ部会「都市社会学はエスニシティ研究に何ができるか 国際社会学からの問題提起を受けて」を開催することになりました。前者は都市コミュニティ論、後者は都市エスニシティ論として、双方ともこれまでの都市社会学の主要な研究テーマを構成してきたわけですが、今回は、それを、社会福祉学、国際社会学といったそれぞれの隣接分野と交流しながら、改めて都市社会学の力を問うという野心的な試みになっています。多くの会員の参加を期待しています。

(理事・企画委員長 園部雅久)

<シンポジウム概要>

地域福祉の現在と未来 - 都市社会の力を問う

【趣旨】

現在日本の地域社会は大きな変動期をむかえている。少子高齢化は、戦後の産業化の進展の結果生じた変化とあいまって、日本の家族と地域社会の人間関係のあり方を根底から変えつつある。2000年に制定された社会福祉法は、福祉ニーズを有する人々の生活は地域で保障されるべきであること(地域福祉理念)を明確に規定した。同年に施行された介護保険制度は、在宅福祉を通じて高齢者介護を地域で実現するための仕組みを導入したが、同制度は営利企業の介護ビジネス参入を可能にした点で、福祉行政の転換点となるものであった。これらの制度と法律が導入された背景には、行財政改革と地方分権という日本社会の大きな流れがある。

現在の地域社会は、少子高齢化という人口学的変化と地方自治体の役割の増大と市場化という制度的変化の中にある。社会福祉法でうたう地域福祉理念は、地域住民の主体的、具体的、日常的参加を望ましいものと考えている。しかし、自然のものとして存在してきた地域の福祉力が弱体化した今日、新たな行動主体として、営利・非営利組織の役割が注目されている。地域社会において、多様なアクターが連携し互いの福祉を実現するという課題は、単に高齢化社会への対応というだけではなく、子ども、障害者、外国人など、様々な事情と背景を持った住民にとっての安心・安全な場の創造という今日的テーマにつながっている。そして、地域社会におけるソーシャルキャピタルの活性化、あるいは地域住民が持つ私的資源(時間、経験など)を地域の一般的目的のため提供する必要性(私的資源の公的利用)という問題を提起している。

本シンポジウムでは、上述の諸問題の多くが地域社会を接点として、都市社会学と社会福祉学と境界領域にあることにかんがみ、社会福祉学にも詳しい報告者の方々をお招きした。まず、社会学と社会福祉学における、地域福祉理論と地域福祉に関する経験の共有の可能性について検討する。続いて、地域福祉の実現の主体となる住民組織のあり方や営利・非営利組織の役割に関する報告を行い、都市社会学から地域福祉を問う視点を提示したい。その上で、討論者とフロアの質疑応答を通じ、「地域福祉」の実現に際して都市が持つ可能性について議論を深めていきたい。

(新田目夏実・早川洋行・松園祐子)

【報告者】

平川毅彦(富山大学) : 福祉コミュニティ研究 - 都市社会学と社会福祉の文化的共存を探る
小川全夫(山口県立大学) : 高齢人口集中地区の発生と生活支援 - あらたな信頼関係の構築にむけて
安立清史(九州大学) : NPOによるコミュニティの再構築(仮題)

【討論者】

黒田由彦(名古屋大学) 金子勇(北海道大学) 新田目夏実(拓殖大学)

【司会】

早川洋行(滋賀大学) 松園祐子(淑徳大学)

< テーマ部会概要 >

都市社会学はエスニシティ研究に何ができるか - 国際社会学からの問題提起を受けて -

【趣旨】

現在、移民・外国人労働者・エスニシティを巡っては、一方におけるトランスナショナルな移動の高まりと、新たな「定住化」の展開のなかで、「統合」や「共生」「コミュニティ」の意味が問い直され、研究パラダイムの再検が迫られている。特に近年の「国際社会学」からは、国家・市場・コミュニティのトライアングル構造に関する「構造論」的分析を背景に、移住システムや移民コミュニティに関する理論的枠組みの彫琢、共生から統合への展開、政策場面でのコミュニティの再定義に関する問題提起がなされている。例えば、社会的な権利をもたない外国人労働者の定住化の進行を「顔の見えない定住化」と定義し、彼らを生み出す「構造的制度的文脈」の分析を背景に「統合」実現の政策課題を提言する立場はその一つである。

こうした問題提起を受けて、都市社会学のエスニシティ研究は、今何ができるのか、そしてより広く都市社会学はエスニシティ研究に何ができるのか。本テーマ部会はその様々な可能性と方向性を探ることを目的にする。

本テーマ部会では、特に「国際社会学」の立場からなされる問題提起を第一報告とし、その問題提起を受けるかたちで、都市社会学の分野から展開されたエスニシティ研究からの報告を3本配置する。特に、国際社会学からの樋口直人の第一報告では、都市社会学の研究蓄積は現在のエスニシティ研究にどう生かせるのかとの問題関心を背景に、「構造的制度的文脈」からの研究パラダイムや「統合」「移住システム」「移民コミュニティ」諸概念の説明と、この問題に有効な都市社会学理論とは何かについて問題提起を行う。広田康生の第二報告では、「都市エスニシティ研究」の原点に立ち返り、特に行為主体の側から積み上げていくエスニシティ研究のパラダイムの現在の意味を「構造的制度的文脈」に焦点をあわせる立場と対照させつつ再検し、都市社会学の可能性を問う。稲月正の第三報告では、基本的に第一報告での問題提起を支持しつつ、生活の構造化過程を背景にしたエスニシティの社会参加や「共生」可能性を問い、あわせて都市社会学における「構造論的」分析に関する財産目録の問い直しを試みる。そして第四報告者の田嶋淳子は、特に中国系移住者の移動と定着過程に焦点を合わせ、国内で問題になる「統合」や「共生」の位相と国外での位相との“ずれ”に言及しつつ、トランスナショナルな世界での現状に関する問題提起と都市社会学の「可能性」について論ずる。それぞれの報告や質疑応答の過程で、都市社会学の理論的財産目録を確かめ、研究可能性を探る展開になる。（谷富夫・都築くるみ・広田康生）

【報告者】

- | | |
|---------------|----------------------------------------------------|
| 樋口直人（徳島大学） | ：エスニシティ研究と都市エスニシティ研究の間 構造論的アプローチからの問い直し |
| 広田康生（専修大学） | ：なぜ都市社会学はエスニシティをテーマ化したか 越境する世界を捉える行為主体からのパラダイムの再検討 |
| 稲月 正（北九州市立大学） | ：民族関係の都市間比較分析から見えてくるもの - 生活構造論的共生概念の再検討 |
| 田嶋淳子（法政大学） | ：トランスナショナル・ナショナル・ローカルのはざままで 中国系移住者の移動と定着をめぐる |

【司会】

- | | |
|------------|-------------|
| 園部雅久（上智大学） | 若林幹夫（早稲田大学） |
|------------|-------------|

4. 編集委員会報告

編集委員会は、2006年9月16日（第1回）、10月29日（第2回）、12月2日（第3回）の計3回開かれました。『年報』第25号は、9月の第25回大会で会員の皆様に配布する予定です。

今回の年報では、昨年（2005年）の第24回大会で開催されたシンポジウム「都市社会の構造と変動 三大都市圏の社会・空間構造の再編」を特集します。報告者の論文のほか、当日の討論者、司会者にもコメント・解題を執筆いただいております。

その他、例年どおり、自由投稿論文、書評などが掲載される予定で、目下、編集作業を行っています。最終工程の編集と印刷は、引き続きハーベスト社に委託して進めております。

最後に、『年報』に関するご意見、ご要望がありましたら、お気軽に一橋大学の編集委員会事務局までご連絡下さいませようお願いします。
(常任理事・編集委員長 町村敬志)

5. 『日本都市社会学会年報』26号(2008年発行)自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』26号(2008年発行)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』25号(2007年発行)に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2007年11月末日までに編集委員会事務局までお送り下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

なお、本年の大会終了後、編集委員会事務局が移動する予定です。これにあわせて原稿の送付先も変更になります。詳細は、11月初旬までに発行予定の学会ニュースまたは学会ホームページにおいてご確認下さい。
(常任理事・編集委員長 町村敬志)

〒186-8601
東京都国立市中2-1
一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室 気付
日本都市社会学会編集委員会事務局
電話・FAX: 042-580-8642 (町村研究室直通)
E-mail: cs00035@srv.cc.hit-u.ac.jp

2007年9月までの編集委員会事務局です。ご注意ください。

会員異動

新入会員

<北海道・東北>

濱田 国佑 北海道大学大学院

<中部・関西>

稲垣 伸子 中京大学大学院

所属・住所・電話番号等連絡先の変更

所属・住所等の変更

<関東>

似田貝香門 東京大学名誉教授

<中部・関西>

佐藤 裕一 姫路日ノ本短期大学

南川 文里 神戸市外国語大学

<中国・四国・九州>

篠原 隆弘 (4月1日より)

<海外>

李 珊 大連海事大学

住所・電話番号の変更

<関東>

栃内 睦也 上智大学

福田 友子 東京都立大学

吉原 亮 工学院大学

渡戸 一郎 明星大学

<中国・四国・九州>

文屋 俊子 福岡県立大学

退会

<北海道・東北>

三谷 鉄夫

<中国・四国・九州>

宇都宮真希 吉備国際大学

転居先等不明 (ご存じの方は学会事務局までご連絡ください。)

藤井浩人 H.Loiskandl 溝口潤一郎 柄田明美

学会事務局より

本号では、「第25回大会」の予告として、「歓迎のことば」および「山口大学への交通案内・宿泊案内」を山口大学の三浦典子先生と横田尚俊先生にご執筆いただきました。どうもありがとうございました。「歓迎のことば」にもありますように、山口大学での大会は第25回目という節目の大会でもあります。奮ってご参加ください。

次号の学会ニュース第77号は、「第25回大会特集号」として、大会プログラム、シンポジウムおよびテーマ部会のより詳細な紹介、自由報告要旨、会場案内などを中心に編集し、7月下旬頃にお届けする予定です。ご期待ください。

(事務局 藤原法子)